

くずは未来ビジョン

地域 みんなで創るくずはの姿



樟葉駅前広場活性化協議会

目次

1. 樟葉駅前広場周辺エリアの沿革
2. 樟葉駅前広場周辺エリアの現状分析
3. 未来ビジョン策定の目的（なぜ、いま未来ビジョンが必要なのか）
4. 対象エリア
5. 未来ビジョン策定のプロセス
6. まちづくりの方向性
7. 樟葉駅前広場の目指す姿
8. アクションプラン
9. 最後に

1. 樟葉駅前広場周辺エリアの沿革

楠葉（京阪電車の駅名表記は「樟葉」）は、京都・大阪両府境付近にあり、一般的には、広義として隣接する京都府八幡市男山地区の『くずはローズタウン』として開発された地域も含まれる。1960年代までは田畑で囲まれた閑散としたエリアであったが、京阪が長年にわたって大規模な住宅地や商業施設などの開発を行い、それに伴って周辺部にも男山団地をはじめとする住宅地が建設された。

1889年楠葉村と船橋村が合併して誕生したのが樟葉村。その後、樟葉村は枚方町と合併するまで50年続き、その間に創設された小学校や駅には「樟葉」がつけられている。枚方町と合併して樟葉村がなくなった1938年以降は、再び楠葉の名称が使用されている。

『日本書紀』によると、継体天皇が507年に樟葉で即位し、5年にわたり宮を営んだとされている。樟葉駅の北側には、787年に桓武天皇が建立した交野天神社があり、境内の枚方八景にも指定されている樟葉の宮跡の杜は自然豊かな散歩道として地元で親しまれている。八幡市との境にある楠葉平野山瓦窯跡では、昭和49～50年に行われた楠葉東遺跡の発掘調査で大昔の土器や瓦が大量に出土。飛鳥時代に聖徳太子が創建したといわれる四天王寺には、楠葉でつくられた瓦が使用されていたことも判明するなど「土器づくりの里」としても有名になるなど、歴史・文化が豊かなまちとしても地域住民に親しまれている。



交野天神社（出典：ひらいろ）

京阪電車樟葉駅の1日あたりの乗降客数は1961年時点では京阪本線中最少の1,560人であったのが、1972年に現在のくずはモールの前進で日本初のオープンモールであったくずはモール街の開業を機に1983年11月には63,400人に達した。



くずはモール街オープン時の駅前の様子
（出典：ひらいろ）

くずはモール街は、2005年に「KUZUHA MALL」としてリニューアルオープン。さらに、2014年にもリニューアル・増床が行われた。2021年度には、ロータリーの形状やタクシー乗り場の位置変更、バス乗降場の形状等の改良を目的とした整備工事を完了し、ロータリー内の交通混雑解消や安全性確保など、一定の課題解消が図られた。

2024年、残る課題である賑わいとゆとりある駅前空間の形成、公共交通利用環境の改善、及び「枚方市みどりの基本計画」にある駅前広場の植栽充実を図るため、枚方市と京阪グループの包括連携協定の一環として、天然芝生や屋根付きベンチ、可動式植栽などの環境整備を行った。そして、民間の創意工夫を活かした持続可能な駅前空間の賑わい創出を促すため、枚方市により歩行者利便増進道路（ほこみち）に指定され、地域を活性化するような道路の活用が可能となる利便増進誘導区域が設定された。その後、枚方市歩行者利便増進道路占用予定者選定委員会の公募により選出された樟葉駅前広場活性化協議会が1次占用户として2024年12月より運営を開始している。



環境整備前の樟葉駅前広場



2024年5月より天然芝生広場として供用開始

2. 樟葉駅前広場周辺エリアの現状分析

(1) 樟葉駅前広場周辺エリアの強み

- 大阪府枚方市の北端部に位置し、ニュータウンとして開発されたくずはエリアは、閑静な住宅街が広がり、京阪沿線の住みたい街に常に上位にランクインする人気エリアである。
- 京阪電車「樟葉駅」は1日5万人以上の乗降客数があるほか、ターミナル駅でもあるため、隣接する京都府八幡市内の利用者も多く、駅前のバスロータリーでは1日1万6千人ほどが京阪バスを利用している。また、年間の来館者数が1,500万人を超える大型商業施設「くずはモール」が駅前広場を取り囲むなど、人の流れが駅前周辺に集中するエリア環境となっている。
- 「くずはモール」を通り抜けると、樟葉中央公園に隣接する消防所や公民館、図書館などの公共施設が集積。駅西側に広がる淀川河川敷には樟葉パブリック・ゴルフ・コースといったレジャー施設があるなど、様々な機能が樟葉駅周辺エリアには集積している。



楠葉生涯学習市民センター



くずはゴルフリンクス

- 樟葉駅前広場において、過去に実証実験を複数回実施しており、その結果からイベント開催時の集客力が非常に高い空間であることが明らかになっている。

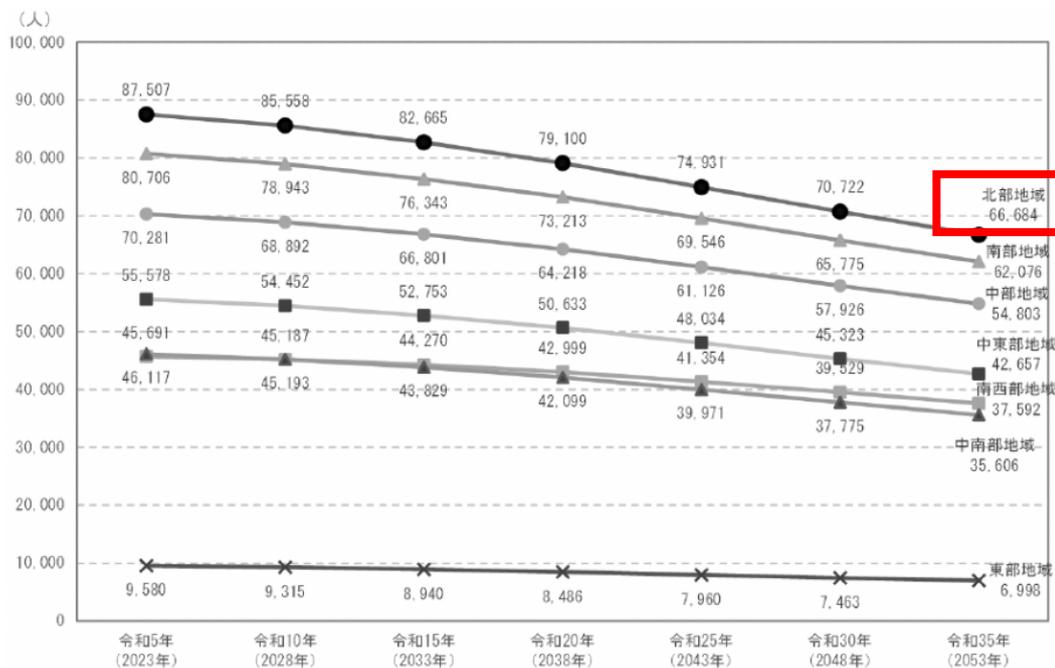
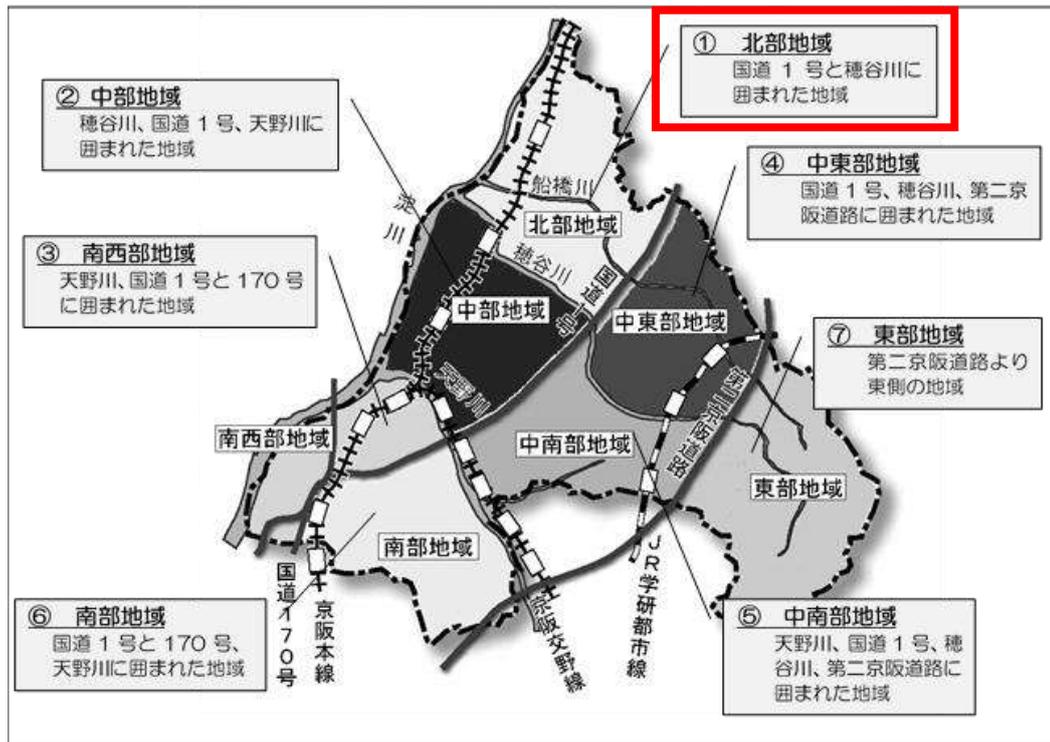
【最も来場者数が多かったイベント】

| 概要 | ビジュアル/当日写真 |
|---|------------|
| <p>【タイトル】 くずは夜市ヨイノクチ</p> <p>【開催日】 2023年9月1日(金)・2日(土)</p> <p>【コンテンツ】 食や音楽、縁日等を集めた夜市</p> <p>【来場者数/売上】 約30,000人/約880万円</p> <p>【主催】 株式会社京阪流通システムズ</p> | |

(2) 樟葉駅前広場周辺エリアの課題

○枚方市の人口が2009年をピークに微減傾向が続いており、くずはエリアが位置する北部地域においても、今後も減少し続けると予想されている。また、くずはエリアは約50年前に開発されたニュータウンであるため、住民の高年齢化が始まっており、若年層の割合が減少している。

<枚方市地域別人口推計>



出典：枚方市 HP「枚方市人口推計調査について（令和5年11月）」

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/0000049106.html>

<<ずはエリア年代別人口推計>

※対象エリア

船橋本町／東船橋／南船橋／西船橋／北船橋町／東山／町楠葉／南楠葉／北楠葉町／楠葉中町／
楠葉花園町／楠葉面取町／楠葉野田／楠葉丘／楠葉中之芝／楠葉並木／楠葉朝日／楠葉美咲

2015年より減少

2015年から増加

| 年代 | 2015年 | | 2020年 | | 2025年 | |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 人口 | 構成比 | 人口 | 構成比 | 人口 | 構成比 |
| 10歳未満 | 4,118 | 8.1% | 3,673 | 7.5% | 3,397 | 7.2% |
| 10代 | 5,216 | 10.3% | 4,622 | 9.5% | 4,218 | 8.9% |
| 20代 | 5,112 | 10.1% | 4,800 | 9.8% | 4,532 | 9.6% |
| 30代 | 6,369 | 12.6% | 5,278 | 10.8% | 4,715 | 10.0% |
| 40代 | 7,890 | 15.6% | 7,342 | 15.0% | 6,107 | 12.9% |
| 50代 | 6,024 | 11.9% | 6,590 | 13.5% | 7,456 | 15.7% |
| 60代 | 7,196 | 14.2% | 5,837 | 12.0% | 5,544 | 11.7% |
| 70代 | 5,808 | 11.4% | 6,753 | 13.8% | 6,235 | 13.2% |
| 80代 | 2,568 | 5.1% | 3,260 | 6.7% | 4,247 | 9.0% |
| 90歳以上 | 437 | 0.9% | 670 | 1.4% | 929 | 2.0% |
| 合計 | 50,738 | 100.0% | 48,825 | 100.0% | 47,380 | 100.0% |

出典：枚方市 HP「町名別・5歳階級年齢別性別人口表」

<https://www.city.hirakata.osaka.jp/category/6-19-3-0-0-0-0-0-0-0.html>

- 樟葉駅前広場は、京阪電車「樟葉駅」、商業施設「くずはモール」、ロータリーに近接する囲まれた広場型のスペースであり、賑わい創出の拠点として高い潜在能力を有する公共空間でありながら、道路区域であるが故に制限が多いことや、改修前に設置されていた噴水が老朽化により長年停止されるなど、有効活用できておらず人々が単に通過する場所となっていた。
- エリア活性化のために精力的に活動する商店会等の地域コミュニティは複数存在するものの、それぞれが個々に活動しており、まち全体のエリアマネジメントをリードする組織がなかったことから、地域のパワーを最大化出来ていなかった。



hana くずはフェスタ
(主催：hana くずは商店会)



ハロウィンウォーク
(主催：樟葉宮表参道商店会)

3. 未来ビジョン策定の目的（なぜ、いま未来ビジョンが必要なのか）

2024年5月、樟葉駅前広場は芝生化等の環境整備を契機に生まれ変わり、さらに同年12月に「ほこみち」の本格運用が開始されたことで、官民が一体となりまちを成長させていく新たな局面を迎えている。このようなくずはエリアが変化を遂げようと歩み始めたこのタイミングで、エリアが抱える課題を解決し、より魅力的なまちへと発展していくために、地域が一体となってまちづくりに取り組んでいけるような方向性や将来像を示す未来ビジョンを策定する必要がある。

4. 対象エリア



樟葉駅前広場を核とし、将来的には、京阪電車「樟葉駅」を中心に歩ける範囲（概ね1 km程度以内の区域）と定義し、隣接するくずはモールや駅ビルに加え、楠葉中央公園や周辺の商店街、大阪歯科大学などの周辺エリアも対象に含める。

5. 未来ビジョン策定のプロセス

2023年11月に設立された樟葉駅前広場活性化協議会が主体となり、2024年5月18日～7月21日に実施した実証実験の結果を踏まえ、くずはエリアで様々な活動をされている地域関係者を集めた「くずは未来会議」を開催し、計3回のワークショップにて議論を重ね未来ビジョンを策定した。

※芝生化後の実証実験の内容については、

別紙「樟葉駅前広場（ハピネスパーク KUZUHA グラススクエア及びその周辺部）における実証実験」参照

(1) 樟葉駅前広場における活動経緯

| 実施日 | | 活動 |
|-----------------|------------|---|
| 2022年7月～2023年9月 | | 実証実験イベントを複数回開催（主体：㈱京阪流通システムズ） |
| 2023年 | 11月29日 | 樟葉駅前広場活性化協議会設立総会 |
| 2024年 | 4月1日 | ㈱西鶴が樟葉駅前広場のネーミングライツを取得 |
| | | ㈱京阪流通システムズがデジタルサイネージを活用した社会実験を開始 |
| | 5月11日 | 大阪府都市緑化を活用した猛暑対策事業補助金により天然芝生広場として供用開始（オープンイベントも開催） |
| | 5月～7月 | 芝生化後の実証実験（主体：樟葉駅前広場活性化協議会） |
| | 8月19日 | 第1回くずは未来会議 |
| | 10月29日 | 第2回くずは未来会議 |
| | 11月 | 枚方市歩行者利便増進道路占用予定者選定委員会により、樟葉駅前広場活性化協議会がほこみち運営事業者に選定 |
| | 12月1日 | ほこみち事業運営開始 |
| | 12月20日～25日 | HAPPINESS CHRISTMAS MARKET 開催 |
| 2025年 | 1月29日 | 第3回くずは未来会議 |
| | 3月26日 | 第4回くずは未来会議 |

(2) エリアプラットフォーム「樟葉駅前広場活性化協議会」

【設立】2023年11月29日

【構成員】枚方市及び樟葉駅周辺エリアのまちづくりの推進を図る活動を行う団体、大学、企業、地域団体等で構成

| 団体名 | |
|----------------------|-------------------|
| 枚方市観光にぎわい部 観光交流課 | 京阪ホールディングス(株) |
| 学校法人関西医科大学 | 京阪電気鉄道(株) |
| 独立行政法人都市再生機構（UR都市機構） | 京阪バス(株) |
| 枚方信用金庫 | ㈱京阪百貨店 |
| 合同会社 Picnic Work | ㈱京阪ザ・ストア |
| ㈱西鶴 | ㈱京阪流通システムズ（運営事務局） |

(3) くずは未来会議

【構成員】樟葉駅前広場活性化協議会メンバーに加えて、実際に広場を利用するプレイヤーになり得る、くずはエリアで様々な活動をされている以下の地域関係者で構成

| 団体名 | |
|-----------------|-----------------|
| 北大阪商工会議所 | 大阪ブルテオン |
| hana くずは商店会 | (株)FC TIAMO |
| くずはロータリークラブ | NPO 法人 KEY |
| 枚方ローズライオンズクラブ | アトリエいろのね |
| まちライブラリーとかとか | ちいさいほいくえん みんなの里 |
| NPO 法人えほんのひまわり畑 | 摂南大学 |

| 専門人材 | |
|-------------|-----------|
| 大阪公立大学 嘉名教授 | 摂南大学 熊谷教授 |

| | |
|-----|-----------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション・ワークショップ |
| 第2回 | 勉強会・ワークショップ |
| 第3回 | 未来ビジョン素案発表・ディスカッション・ワークショップ |
| 第4回 | 未来ビジョン発表 |

第1回ワークショップ

◆テーマ◆

“樟葉駅前広場がどうあってほしいかを語ろう”

◆ワークショップの流れ◆

それぞれの思い描く理想の広場のイメージを共有し、「どうあってほしいか」、「何が必要か」を繋いで大切にすべきキーワードを抽出

◆まとめ◆

① 理想のイメージ

ふらっと行きたくなる／子どもたちの笑顔が溢れる・思い出になるような場所／絶えず人がいる／老若男女問わず安心して過ごせる／緊急時の避難場所／ワクワク感のあるエンターテインメント性の高い場所

② 何が必要か

公園のような過ごしやすい環境（日陰・遊具など）／認知度・発信力／人と人とのネットワーク／イベントができる環境／お金／規制緩和／安全・安心／

③ どうあってほしいか

みんなのサードプレイス／地域の方に愛されるシンボル／グローバル／持続可能／自慢したくなるようなブランド感／オンリーワン／くずはらしい文化

第2回ワークショップ

◆テーマ

“樟葉駅前広場をどう使うか”

◆ワークショップの流れ

樟葉駅前広場をどう使うかをブレインストーミングして、それぞれのアイデアを組み合わせる新しい使い方を導く

◆まとめ

各グループで共通して、以下の通り、日常／イベント／情報発信という3つの側面に分けた使い方が議論された

① 日常的に安心して使える場所

公園のように誰でも遊べる／保育園の園庭代わり／一人でくつろげる／避難場所 等

② 魅力的なイベントが行われる場所

音楽／アート／スポーツ／ナイトレジャー／季節イベント／撮影会／健康イベント 等

③ 多様な交流や情報発信ができる場所

防災イベント／世代間・異文化・異業種での交流／枚方の名産マルシェ／企業PR 等

第3回ワークショップ

◆テーマ

“樟葉駅前広場のイベントを企画しよう”

◆ワークショップの流れ

日常／イベント／情報発信の3つのテーマに分かれて、タイトル、イベントの概要、目的、ターゲット、具体案、実施体制（誰がやる？）を整理したうえで、実現するための課題を洗い出す

◆まとめ

4つのグループがそれぞれ与えられた3つのテーマに合わせて、具体的なイベントの企画について議論を行った

① 日常

- ・遊具やピクニックセットの貸し出し
- ・多種多様なファニチャーの設置（高齢者向けの健康促進／子どもの見守り／読書 等）
- ・若者やワーカー向けのコンセントやWifiの設置
- ・暑さ寒さ対策として自動販売機を設置

② イベント

- ・河内そうめんの歴史を生かした「国際そうめんフェスティバル“S000FES”」
- ・枚方モルック協会にちなんだ「隠れた才能を発掘！くずはでマイナースポーツ体験」

③ 情報発信

- ・くずはだらけ！くずはを愛するくずは民のくずは民によるくずは民のためのイベント
- ・「ミニくずは」と題したパビリオンやワークショップ



勉強会



グループ
ワーク



発表



イベント
企画案



集合
写真

6. 樟葉駅前広場の目指す姿

地域みんなで創り、みんなで集う、“くずは”らしい場所へ



イラスト：アトリエいろのね 沖 明日香 ディレクション：まちライブラリーとかとか 浪本 浩一

<未来ビジョンの合言葉>

友と共に

エリアで活躍する
地域関係者が自ら関わる

みんなの庭で

自分たちのための庭を
愛着持って大切に

TOMONIWA ～ともにわ。～

小さな輪が徐々に大きくなって、
様々な立場の人が助け合い、
住みやすいまちが育っていく。

人が主役のまちで、友と共に、みんなの庭を中心に、
まあるく繋がってその輪を広げていきたい。

つながる笑顔

多種多様な世代や文化が
繋がり生まれるくずはらしさ

まあるい心

広場を中心に広がる
コミュニティの輪

7. まちづくりの方向性

(1) 樟葉駅前広場から広げるまちづくりの輪

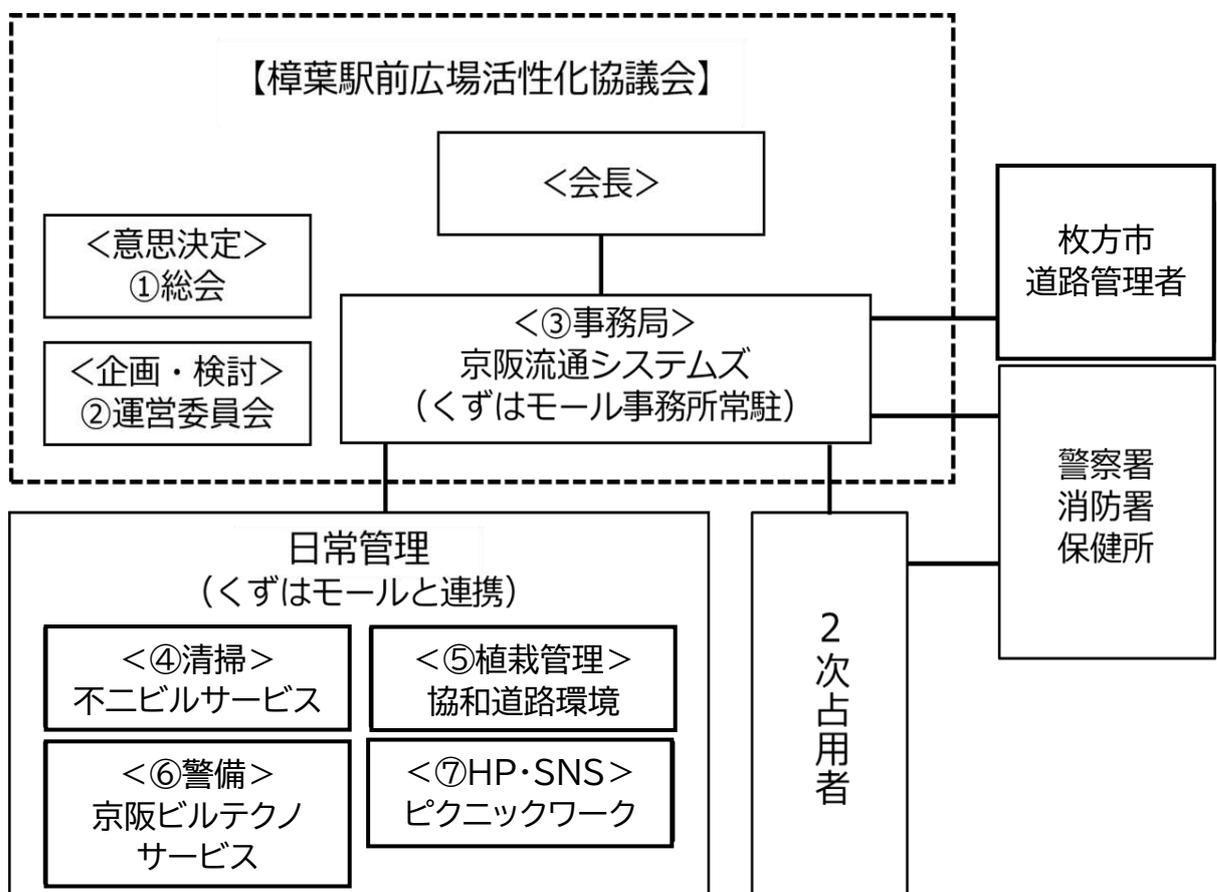
○日常的な一般利用に加えて、まちづくりに貢献したい多種多様な人や団体、企業、地域関係者が活動の拠点として利用できる仕組みを構築し、広場から地域のコミュニティの輪が広がることを目指す。

(2) “シビックプライド” = 地域への愛着と誇りを育てる

○シビックプライドとは、自分自身が関わって都市・地域をよりよくしていこうとする当事者意識に基づく自負心のこと。単純に誇りと愛着があるだけじゃなく、自分たちがアクションを起こして、あるいは人のアクションを手伝うことを通じて、関わることによって、その風景が記憶に残り、「愛着や誇り」が育つことを目指す。

【実施体制】

樟葉駅前広場周辺エリアに関係する多種多様なプレイヤーが相互に連携して、それぞれが主体的にまちづくりに関与できるよう、樟葉駅前広場活性化協議会が中心となりエリアマネジメントを推進する。



8. アクションプラン

駅前という公共空間を活かしながら、日常使いの交流や、イベント、啓蒙活動などを通じ、地域の方々の関わり合いの輪を作ることを目指し、そのための環境やきっかけを樟葉駅前広場活性化協議会が中心となり創出する。

日常

- 隣接するくずはモールや商店会と連携して、クリーンで安心して利用できるよう清掃活動を実施
- 日常的に芝生広場に滞在したくなるようなテーブル・ベンチやキッチンカーの設置
- 地域の子供たちや、近隣の保育園が公園代わりに遊べるような遊具や絵本の広場を展開

テーブル・ベンチ



キッチンカー



可動式遊具



えほんの移動図書館



イベント

- 樟葉駅前広場活性化協議会主催で、ピクニックや夜市、クリスマスマーケットなど、まちの風物詩になるような賑わい創出イベントを開催
- 外部事業者へ有償で広場を貸し出し、得られた収益を賑わい創出活動に還元する
- 駅前広場で使用するテーブルやベンチなどを地域住民が手作りで製作する参加型イベントを開催

夜市



クリスマスマーケット



外部事業者への貸出



地域住民参加型イベント



情報発信

- リアルタイムで樟葉駅前広場のイベント情報が確認できる専用ホームページ及び SNS を開設
- 広場貸出料金を営利目的の法人向けと地域関係者で切り分け、法人以外の団体や行政関係者が利用しやすい仕組みを構築
- ものづくりやスポーツなど、枚方市ならではの地域資源を生かしたマルシェや発表の場を提供
- 周辺の商店会や施設と連携して、エリアの回遊性を高めるイベントを開催

樟葉駅前広場の専用HP



行政のPR



地域の生産者を応援するマルシェ



くずはエリアを回遊するイベント



9. 最後に

くずは未来ビジョンは、

天然芝生に生まれ変わった樟葉駅前広場を契機に、

より良いまちを創っていくための共通のビジョンとして作成されました。

日常使いによる交流やイベント、地域の情報発信を通じて、

同じまちに住む人たちのコミュニティの輪が少しずつ広がり、

一人でも多くの人がかずはエリアを好きになるように、

地域に関わるみなさま自身が主人公となり、

この未来ビジョンの実現に取り組みます。

★くずは未来ビジョンに関する問い合わせ先★

樟葉駅前広場活性化協議会 運営事務局 ㈱京阪流通システムズ 072-866-3340

【別紙】

樟葉駅前広場（ハピネスパーク KUZUHA グラスクエア及びその周辺部）における実証実験
－実施結果－

作成者：枚方市 土木部 土木政策課

樟葉駅前広場（ハピネスパークKUZUHAガラススクエア及びその周辺部）における実証実験

—実施結果—

1. 実証実験概要

樟葉駅前広場における、「ほこみち制度」の本格導入に向け、持続可能な賑わいを創出する利活用及び占有者による日常管理の可能性や効果を確認し、効果的な利便増進誘導区域の設定や公募占有指針の策定に繋げることを目的として実施。

(1) 実施場所



(2) 実施事業者

樟葉駅前広場活性化協議会

※枚方市歩行者利便増進道路占用予定者選定委員会で選定

(3) 実施期間

令和6年5月18日（土）～6月16日（日）

令和6年6月22日（土）～7月21日（日）

（※6月17日（月）～21日（金）は芝生養生期間とし除く）

(4) 実施内容

① 持続可能な賑わいを創出する利活用

休日におけるイベント実施、平日においてキッチンカーやベンチなどを設置

② 占有者による日常管理

広場の日常清掃、イベント利用による芝生広場への影響を記録

2. 実証実験の実施状況

(1) 持続可能な賑わいの創出

① 休日利用

「Wonder Happiness PICNIC」（来場者数：約100名）

開催日時：5月19日（日）10:00～17:00 ※雨天のため14時終了

実施内容：子育て世代をターゲットに、仮設遊具や移動図書館など滞在しやすい空間の創出に加え、絵本の読み聞かせなどを実施。

【当日の様子】



「くるまとくらす。」（来場者数：約1,000名）

開催日時：6月8日（土）11:00～16:00

実施内容：2次占有者の主催として、車両展示のほかマルシェやパトカーとの撮影会など交通とライフスタイルを融合したイベントを実施。

【当日の様子】



「くずは夜市ヨイノクチ」（来場者数：7,768名）

開催日時：7月12日（金）・13日（土）16:00～21:00

実施内容：夕方から夜にかけて若年層をターゲットに、多文化交流をテーマにタイやベトナム料理や文化が楽しめる飲食系イベントを実施。

【当日の様子】



樟葉駅前広場（ハピネスパークKUZUHAガラススクエア及びその周辺部）における実証実験

—実施結果—

②平日利用

・シェード及びベンチ、テーブル・イス、可動式遊具の設置

開催期間：5月20日（月）～24日（金）10:00～17:00

（※可動式遊具は23,24日のみ）

実施内容：芝生上にシェードやテーブル・イス、親子連れが気軽に遊べるよう可動式遊具を設置するなど、平日でも人々が滞留できる空間を創出した。

・キッチンカーの設置

開催期間：5月20日（月）～24日（金）10:00～17:00

7月1日（月）～7日（日）11:00～20:00

実施内容：芝生周辺にキッチンカーを設置し、歩行者の利便増進を図る取り組みを実施。

【取り組みの様子】



(2) 占有者による日常管理

①広場清掃（通常時）

清掃内容：芝生広場内及びその周辺において、落ち葉・ごみ拾い等の簡易清掃を実施。

清掃頻度：1日2回（午前・午後1回ずつ）

②広場清掃（イベント時）

清掃内容：通常時に加え、タイル部分において、鳩の糞害対応として床面特別清掃（高圧洗浄＋ポリッシャー）を実施。

清掃頻度：5月19日（日）、7月12日（金）のイベント前日

【清掃状況】



③芝生管理

芝生への設置物ごとに、設置前後の状態管理・観測を実施。養生囲い等が必要な損傷は見られなかったため、翌日より通常（開放）利用とした。

【管理状況】



3. 交通量調査・利用者アンケート

(1) 交通量調査

イベント利用時における道路占用に伴う歩行者動線の交通量の変化を把握するために実施。

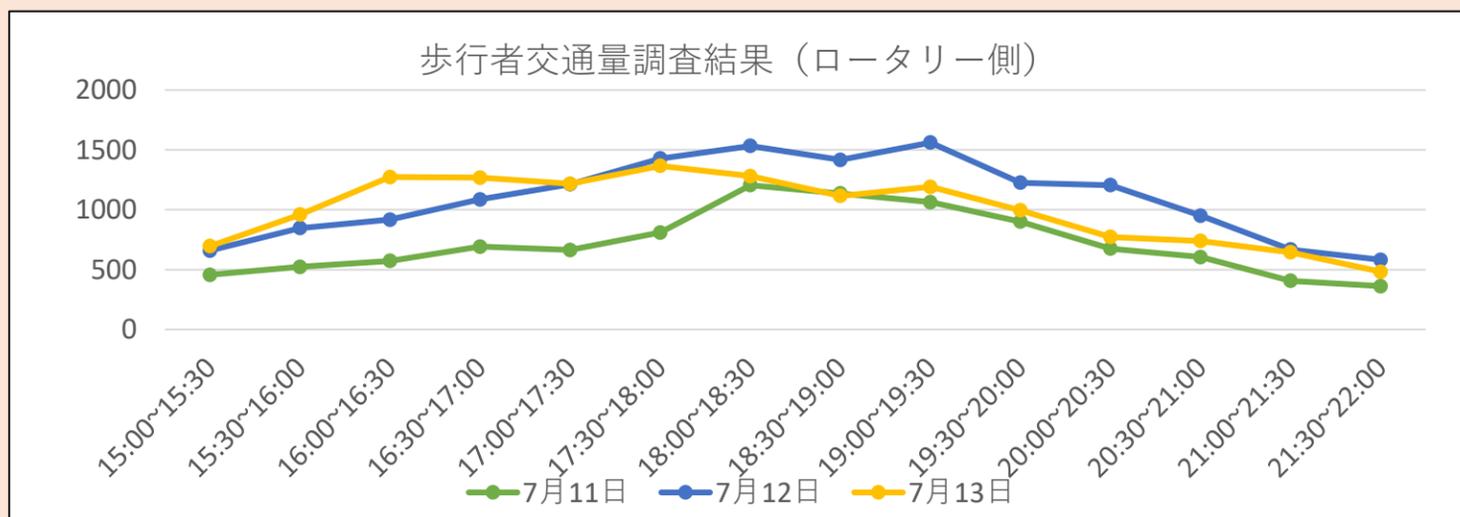
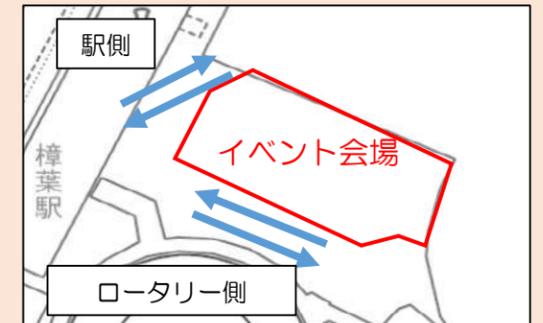
実施日：7月11日（木） 平時

12日（金） イベント時

13日（土） イベント時

時間：15時～22時

場所：右図



測定した2箇所（ロータリー側・駅側）ではロータリー側の交通量が多いため、ロータリー側で比較することとした。

1日の合計値では7/12（金）が最も多く、15,296人となり、7/11（木）と比較して約1.5倍となった。また、ピーク時は19:00～19:30の1,562人であった。

樟葉駅前広場（ハピネスパークKUZUHAガラススクエア及びその周辺部）における実証実験

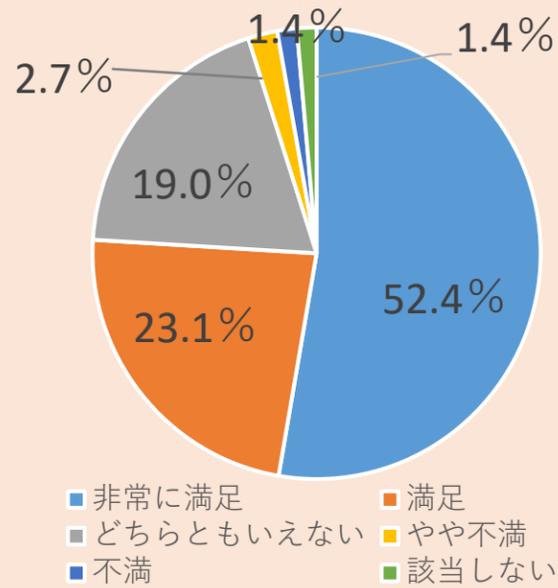
— 実施結果 —

(2) 利用者アンケート

各イベント開催にあわせて、イベントの満足度や求める施設、期待するイベント、道路空間を活用した取り組みへの意識調査などを実施。

【イベント満足度】

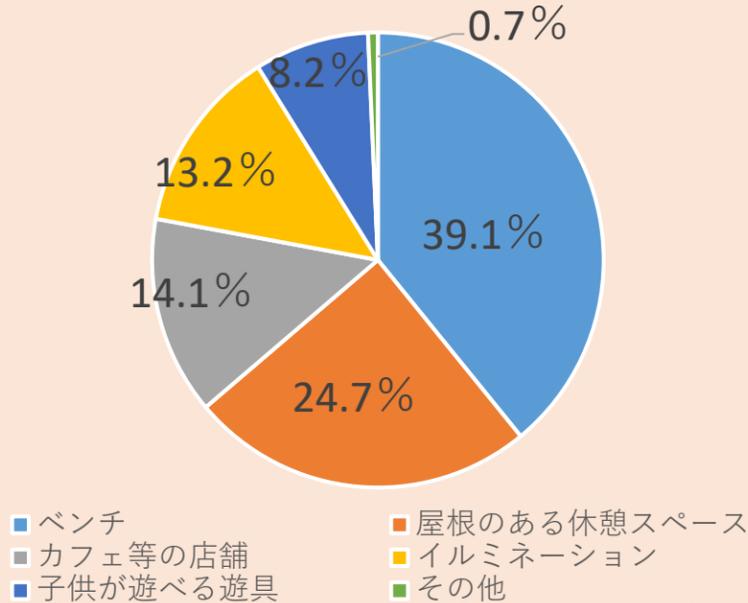
非常に満足(52.4%)と満足(23.1%)を合わせると8割近い方が満足したという評価であった。



(※3日間の結果を集計)

【イベントで求める施設】

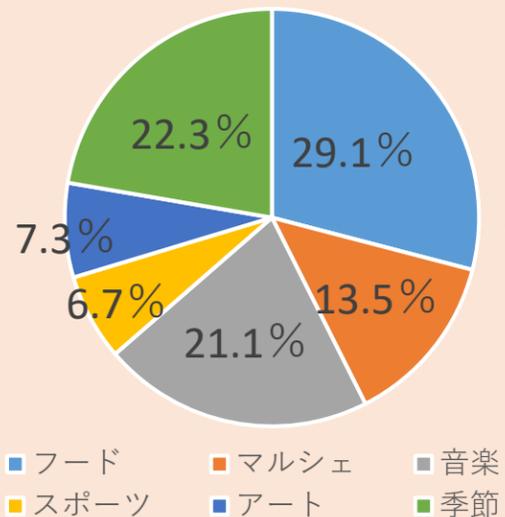
ベンチ(39.1%)が最も多く、次に屋根のある休憩スペースを求める声が多かった。



(※3日間の結果を集計)

【駅前広場で期待するイベント】

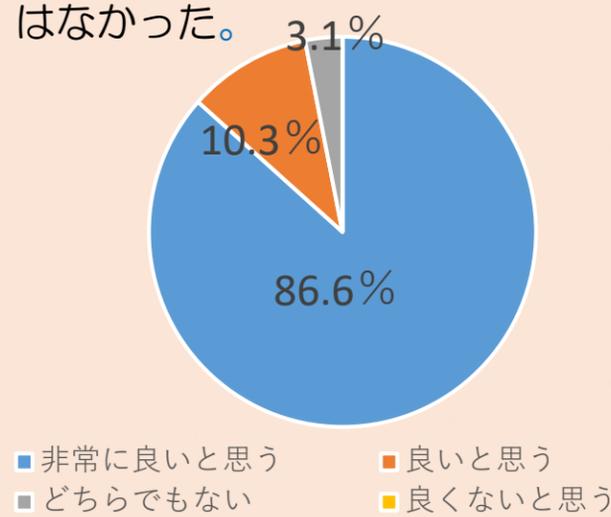
フード・季節・音楽系イベントを期待する声が多かった。



(※3日間の結果を集計)

【道路空間の活用について】

非常に良いと思う(86.6%)と良いと思う(10.3%)を合わせると9割以上が好意的な評価であり、否定的な意見はなかった。



(※7/12,13のみアンケート実施)

4. 実証実験の総括

(1) 持続可能な賑わいの創出

① 休日利用

・「Wonder Happiness PICNIC」5月19日(日)

近隣の子育て世代のファミリーが多く来場し、芝生上にて子どもが遊べる可動式遊具や枚方市で活動をされている方による絵本の読み聞かせ、パフォーマーによるショー等を楽しむ姿が見られ、賑わい創出に寄与できたと考えている。特に遊具の人气が高く、芝生上に設置することで子どもたちの目にとまり、滞在するきっかけになることが分かった。また、屋根付きベンチ等では、キッチンカーで購入した食べ物を食べる姿も見られ、駅前広場の利用シーンをイメージできたほか、ファニチャーの必要性も確認することができた。

・「くるまとくらす。」6月8日(土)

マルシェブースは地元作家による人気のハンドメイドマルシェ、枚方市のゴルフ場が運営するパターゴルフ体験会など、枚方市に関わる方々が出店していたほか、交通に関わる車とライフスタイルの融合によるイベントを行った。枚方市でも大規模なイベント実績のある関西ぱどが利用してくれたことで、地域の賑わいに大きく貢献したと言える。

・「くずは夜市ヨイノクチ」7月12日(金)・13日(土)

近隣の飲食店や物作りに携わる方が出店いただけただことで枚方界隈のお店の魅力を発信することができた。また、仕事帰りや買い物ついでの方などのご利用が多くみられたほか、大学生などの若者も一定数見られたことで、利用者ターゲットの広さとポテンシャルを感じることができた。

② 平日利用

平日ではシェード内でくつろぐ学生がいるなど、利便増進に対する効果があった。可動式遊具を置く場合、置かない場合で芝生に滞在する人数・時間が大きく変わったため、遊具を設置することで芝生利用者の利便が増進することが判明したほか、キッチンカーについては、芝生利用者・滞在者よりも、駅から帰宅する歩行者の需要が高く、歩行者に対する利便が増進する結果となった。

樟葉駅前広場（ハピネスパークKUZUHAグラススクエア及びその周辺部）における実証実験

－実施結果－

(2) 占有者による日常管理

鳩の糞害が広場の簡易清掃では除去できないため、イベントごとに機材を使用した床面清掃を行い負担となった。

芝生への影響については、重量物の場合に跡やくぼみが見られたが、数日で回復した。一定期間設置する場合においても、配置換えすることで影響は無く、実施期間を通して設置物による損傷は見受けられなかった。一方、イベント時に通路として設けた範囲の損傷が目立ったことから、今後、通行動線を1箇所集中させないよう工夫が必要である。



(3) 実施事業者からの主な課題

- ・イベントごとに機材を使った床面特別清掃を行っているため負担増につながっている。また、芝生上の鳩の糞は対処できていないことも課題としてあげられる。芝生利用者やイベント参加者からの鳩の糞に対する意見も多数いただいている。
- ・イベント時以外は機材を使った床面特別清掃を行っていないため、糞がたまってしまい、芝生利用者の減少につながっている。
- ・芝生維持管理を管理業者と占有者で分けると、責任所在が不明確。
- ・関係法令等を遵守していないパフォーマーの広場利用への対応。

5. 市の評価

(1) 持続可能な賑わいの創出

・各イベントを通じて、子育て世代が多く来場し、小さな子供たちが芝生上で遊ぶ姿や、仕事帰りや買い物ついでに来場される方、学生などの若者が楽しむ姿が見られ、「ほこみち制度」の活用による賑わい創出の可能性が確認された。

・以前は掘りこみ構造であった広場に芝生を設置し、広い平場スペースとしたことで、イベント内容のバリエーションが増え、高い満足度に繋がったと考える。

(2) 占有者による日常管理

・現在の状況では、鳩の糞害による負担が大きいことから、占有者へ求める維持管理内容について検討する必要がある。

・芝生への影響については、重量物の設置箇所や通路として設けた範囲に影響が見られたことから、設置条件を検討する必要がある。

・芝生維持管理について、管理責任が明確となるような仕組みを検討する必要がある。

・関係法令等を遵守した個人利用が行えるよう配慮する必要がある。

(3) 歩行者動線への影響

・ピーク時は19:00～19:30の1,562人で、1分あたり52人となったことから、下表のとおりサービス水準を示す評価はA（自由歩行）となり、歩行者の安全かつ円滑な通行に支障が無かったことが確認された。

| 交通量 (人/分) | ロータリー側 有効幅員 (m) | 交通量 (人/m・分) | 水準 |
|--------------|-----------------------|----------------|----|
| 52 | 8.5 | 6.1 | A |

【7/12（金）ロータリー側の様子】



| 評価 | 交通量 (人/m・分) |
|-----------|----------------|
| A 自由歩行 | 0～27 |
| B やや制約 | 27～51 |
| C やや困難 | 51～71 |
| D 困難 | 71～87 |
| E ほとんど不可能 | 87～100 |

(参考) 「大規模開発地区関連交通計画マニュアル」のサービス水準

(4) 今後について

・これらの実施結果を踏まえ、効果的な利便増進誘導区域の設定や公募占有指針の策定を行っていく。